

日本学術会議

は2017年5月に学術フォーラム「危機に瀕する学術情報の現状とその将来」を開催した。その後の学術情報を取り巻く情勢は、オープンサイエンスのさらなる進展、学術情報の分析と大学運営に及ぼす影響、電子ジャーナル問題とその対応戦略、わが国の学会における学術雑誌の諸課題、エビデンスデータの公開、研究データの散逸や学術情報のデジタル基盤構築など、多くの課題が顕在化し、また学術情報のおかれている環境も急速に変化している。

日本学術会議は、学術の基本となる学術情報の現在を継続して検討するため、このたび、学術情報に関するフォーラムのpart2を開催する。学術情報を取り巻く現在の情勢を共有すると共に、将来に向けての活発な議論を展開したい。



## 危機に瀕する学術情報の現状とその将来 Part 2

日 時：平成31年4月19日(金) 13:00~17:30

会 場：日本学術会議講堂(東京都港区六本木7丁目22番地34号)

日本学術会議主催  
学術フォーラム

主 催：日本学術会議  
参加費：無 料  
定 員：300名

申込方法：以下の申込フォームより申込んでください  
<https://ws.formzu.net/fgen/S25136437/>

### PROGRAM

司 会 米田 雅子(日本学術会議第三部幹事、慶應義塾大学特任教授)

13:00 開会挨拶 三成 美保(日本学術会議副会長、奈良女子大学副学長・教授)

13:05 趣旨説明 大野 英男(日本学術会議第三部部長、東北大学総長)

13:15 学術情報としての政府統計の利活用の現状と課題  
北村 行伸(日本学術会議第一部会員、一橋大学経済研究所教授)

13:40 学術誌をめぐる国内外の諸問題と対応策  
山口 周(日本学術会議第三部会員、大学改革支援・学位授与機構研究開発部教授)

14:05 学術の信頼性を損なう粗悪雑誌問題  
野上 識(東京大学理学系研究科シニア・リサーチアドミニストレーター)  
武田 洋幸(日本学術会議第二部幹事、東京大学大学院理学系研究科・理学部研究科長・理学部長)

14:30 エビデンスデータの公開をめぐる課題  
白髭 克彦(東京大学定量生命科学研究所所長)

休憩(15分)

15:10 オープンサイエンスに関する政策と方向  
文部科学省 研究振興局参事官(情報担当)

15:35 オープンサイエンスと情報基盤  
喜連川 優(日本学術会議連携会員、情報・システム研究機構国立情報学研究所所長、東京大学生産技術研究所教授)

16:00 産業界から見た、データ利活用における課題と期待(仮)  
佐々木 直哉(日本学術会議連携会員、日立製作所研究開発グループ技師長、一般社団法人機械学会会長)

16:25 総合討論  
コーディネータ 佐藤 岩夫(日本学術会議第一部部長、東京大学社会科学研究所長・教授)

17:25 閉会挨拶 武田 洋幸(前掲)

17:30 閉 会

